

令和5年度 体罰に関する意識調査結果

1 目的

令和2年4月に改正児童福祉法等の施行により体罰禁止が法定化されたことを受け、神奈川県児童相談所において体罰未然防止に係る様々な事業を行った。

事業実施による普及啓発効果を検証するため、昨年度に引き続きインターネットによる意識調査を実施した。(今回で4回目)

2 対象

神奈川県民 (インターネットにアクセスし、回答した人)

3 調査期間

令和6年1月26日(金)から同年2月26日(月)まで

4 方法

神奈川県中央児童相談所のホームページにアクセスし、性別、年齢及び以下5つの質問に回答。(個人のパソコン、タブレット、スマートフォンで回答)

児童相談所、市町村児童福祉主管課、所管保育所等でのポスター掲示、児童相談所公式Twitterでのツイート、子ども家庭110番相談LINEプッシュ機能通知等を活用し周知を行った。

質問1 体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。

質問2 しつけのために子どもを叩くことは必要だと思いますか。

質問3 体罰が子どもに与えると考えられる影響を知っていますか。

質問4 体罰以外のしつけの方法を学びたいと思いますか。

質問5 子どものために必要なしつけとは、どのような方法で行うことだと思いますか。

数値の見方 本文及びグラフの数値は、その表章単位に合わせて計算された数値を四捨五入しているため、合計と内訳の数は必ずしも一致しない。

5 集計結果と分析

体罰禁止に関する認知度(質問1に「知っている」と回答した人の割合)は**70.6%**で、**令和4年度調査(71.8%)と比較し1.2ポイント減少した。**

体罰の容認度(質問2に「そう思う」と回答した人の割合)は**4.0%**で、**令和4年度調査(3.1%)と比較し0.9ポイント増加した。**性別では**男性**が、年齢別では**20代**が体罰を容認する傾向が見られた。(令和4年度は、性別は同じだが、年齢別は40代が最も高かった。)

子どもへの影響の認知度(質問3に「知っている」と回答した人の割合)は**55.0%**で、**令和4年度(53.5%)と比較し1.5ポイント増加した。**

体罰以外の方法を学ぶ意欲に関する割合(質問に4に「そう思う」と回答した人の割合)は**64.9%**で、**令和4年度(66.8%)と比較し1.9ポイント減少した。**

「子どものために必要なしつけ」(自由記載回答)については、いずれの性別、年齢においても「体罰以外の方法」という回答が多かった。次いで多かったのは、男性、女性ともに「状況により体罰は必要」であった。年齢別では、0歳~19歳が「わからない、悩む、難しい」、20歳~29歳が「状況により

体罰は必要」、30歳～39歳が「状況により体罰は必要」、40歳～49歳が「状況により体罰は必要」、50歳～が「状況により体罰は必要」であった。(いずれも「その他」を除く)

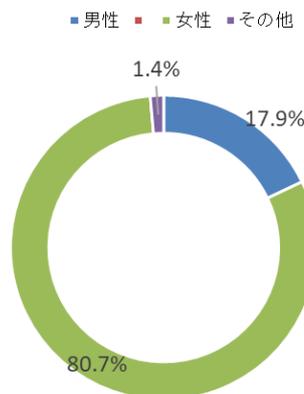
① 回答者集計

回答者数：1,344人

■性別

	人数	割合
男性	240人	18%
女性	1,082人	81%
その他	19人	1%
総計	1,341人	

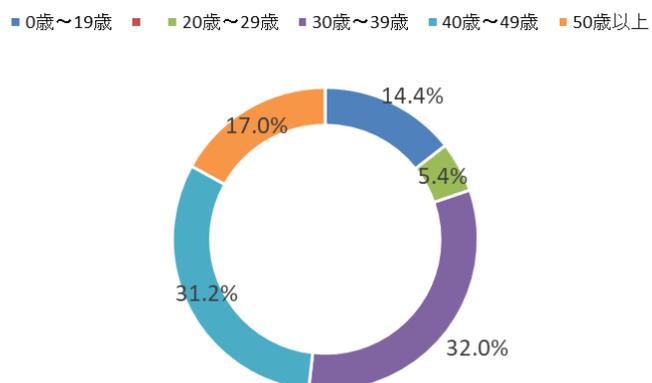
グラフ1



■年齢別

	人数	割合
0～19	193人	14.4%
20～29	72人	5.4%
30～39	429人	32.0%
40～49	419人	31.2%
50～	228人	17.0%
総計	1,341人	

グラフ2



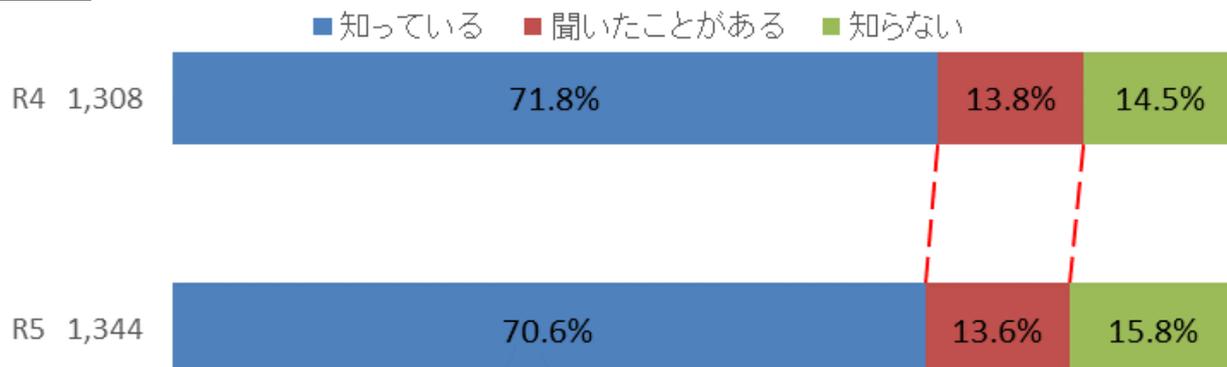
② 各質問への調査結果

各質問への回答について、質問1～質問4については昨年度との比較、男女別の比較、年齢別の比較を行った。

質問5については、回答を17項目のカテゴリーに分類し、性別、年齢別の回答傾向を出した。

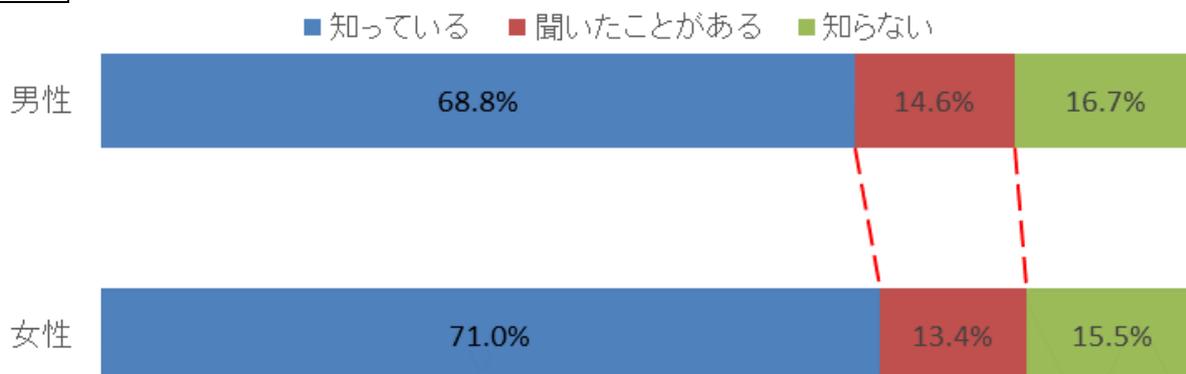
質問1 体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。

グラフ3 令和4年度との比較



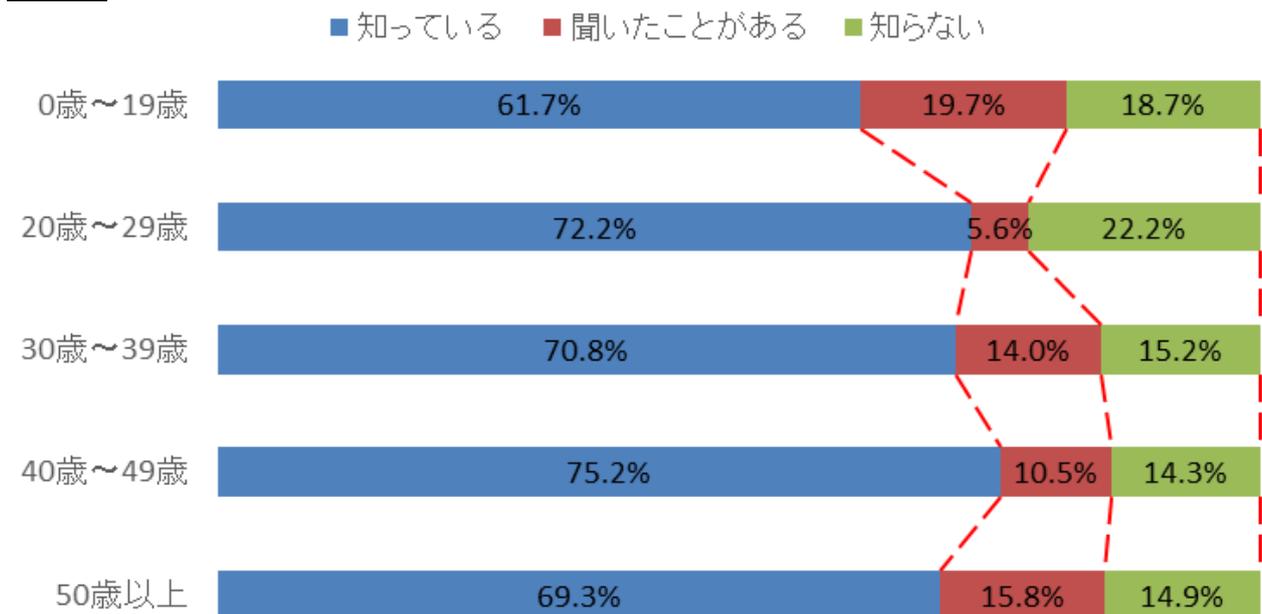
「知っている」の割合を比較すると令和5年度では1.2ポイント減少している。

グラフ4 性別と認知度の関係



性別では、女性の方の認知度が2.2ポイント高い。

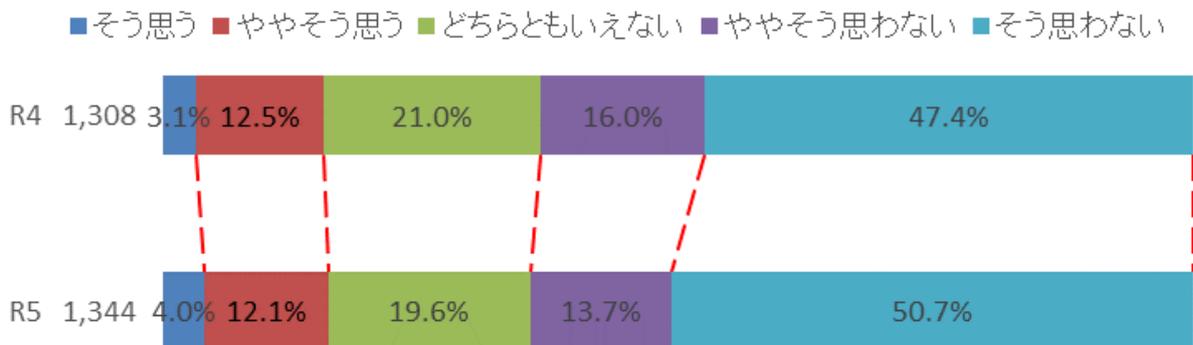
グラフ5 年齢と認知度の関係



年齢別では、40代が「知っている」の割合が最も高く、20代が「知らない」の割合が最も高い。

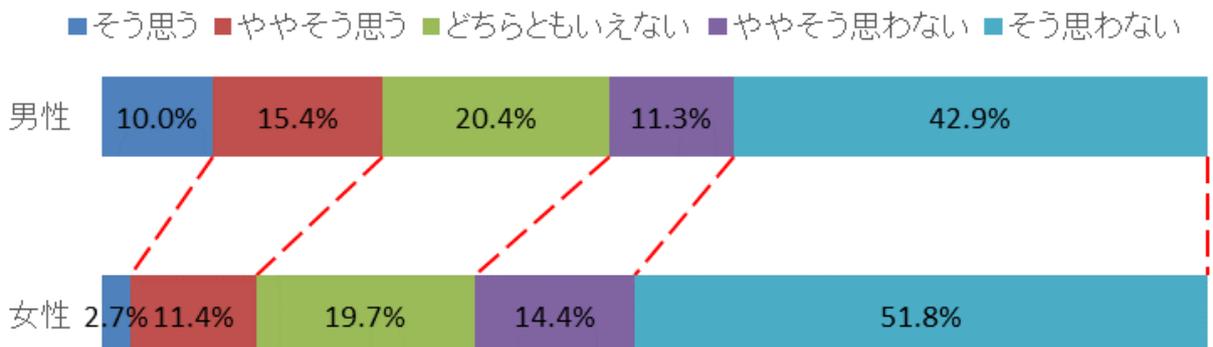
質問2 しつけのために子どもを叩くことは必要だと思いますか。

グラフ6 令和4年度との比較



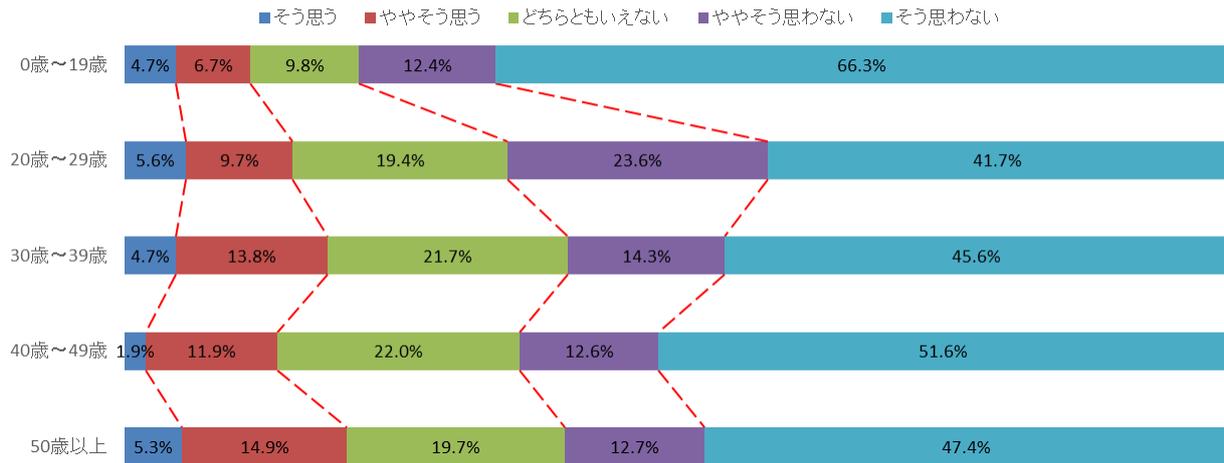
令和5年度では、「そう思わない」の割合は3.3ポイント増加している。

グラフ7 性別と体罰容認の関係



「そう思う」の割合は、男性の方が7.3ポイント高い。

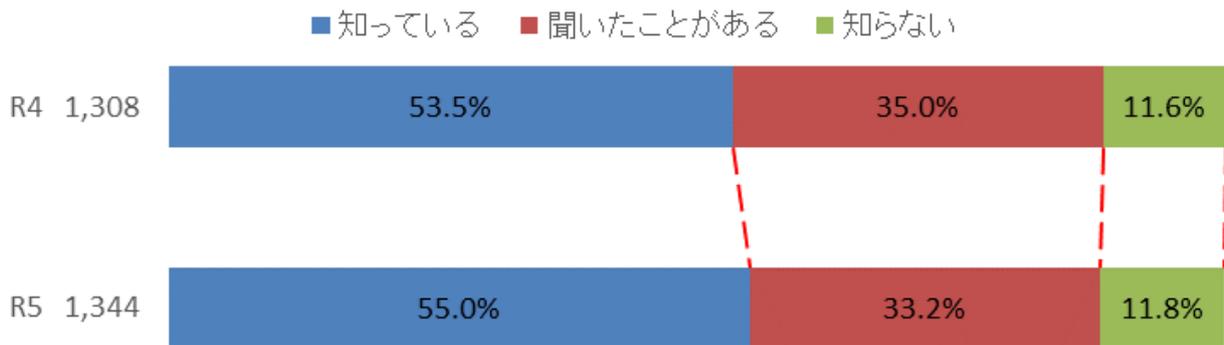
グラフ8 年齢と体罰容認の関係



「そう思う」の割合は20代で最も高く、「そう思わない」の割合は10代で最も高い。

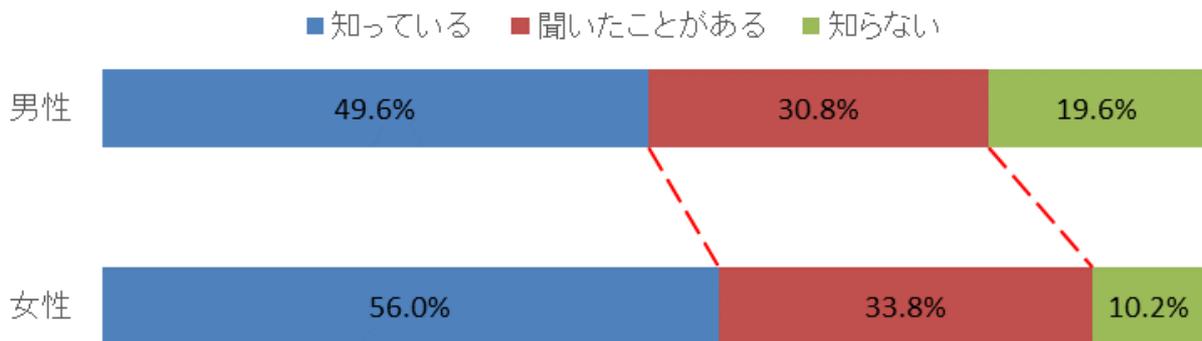
質問3 体罰が子どもに与えると考えられる影響を知っていますか。

グラフ9 令和4年度との比較



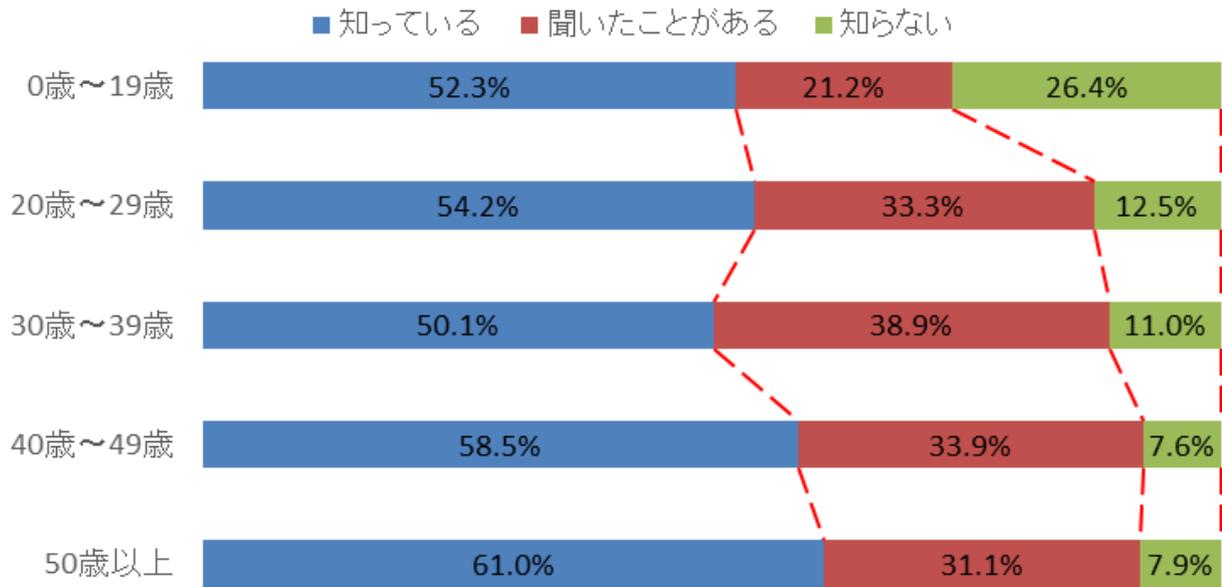
令和5年度では、「知っている」の割合は1.5ポイント増加している。

グラフ10 性別と認知度の関連性



「知っている」の割合は、女性の方が6.4ポイント高い。

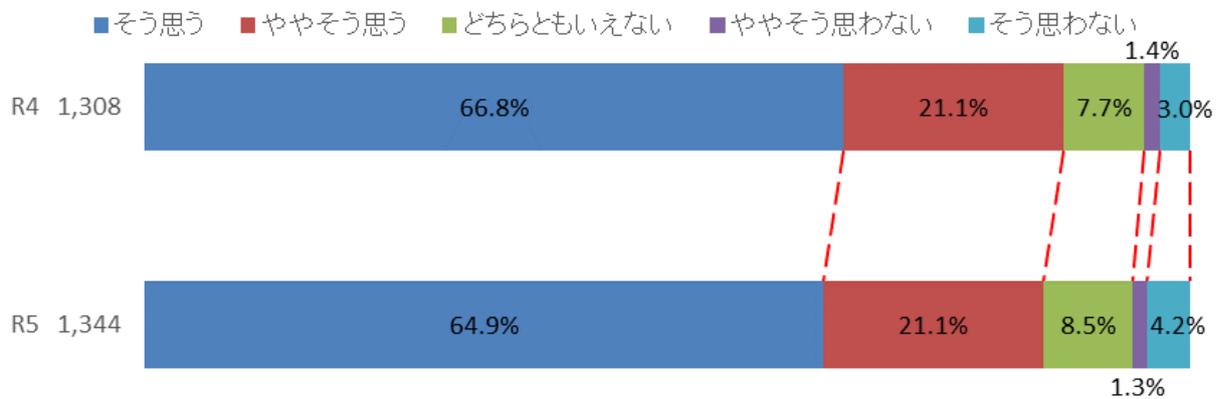
グラフ11 年齢と認知度の関連性



「知っている」の割合は50歳以上で最も高く、「知らない」の割合は10代で最も高い。

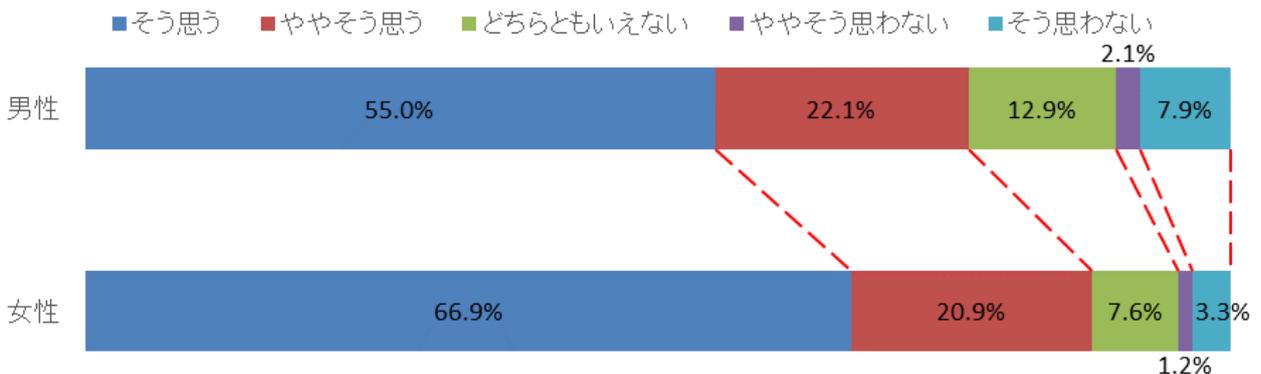
質問4 体罰以外のしつけの方法を学びたいと思いますか。

グラフ12 令和4年度との比較



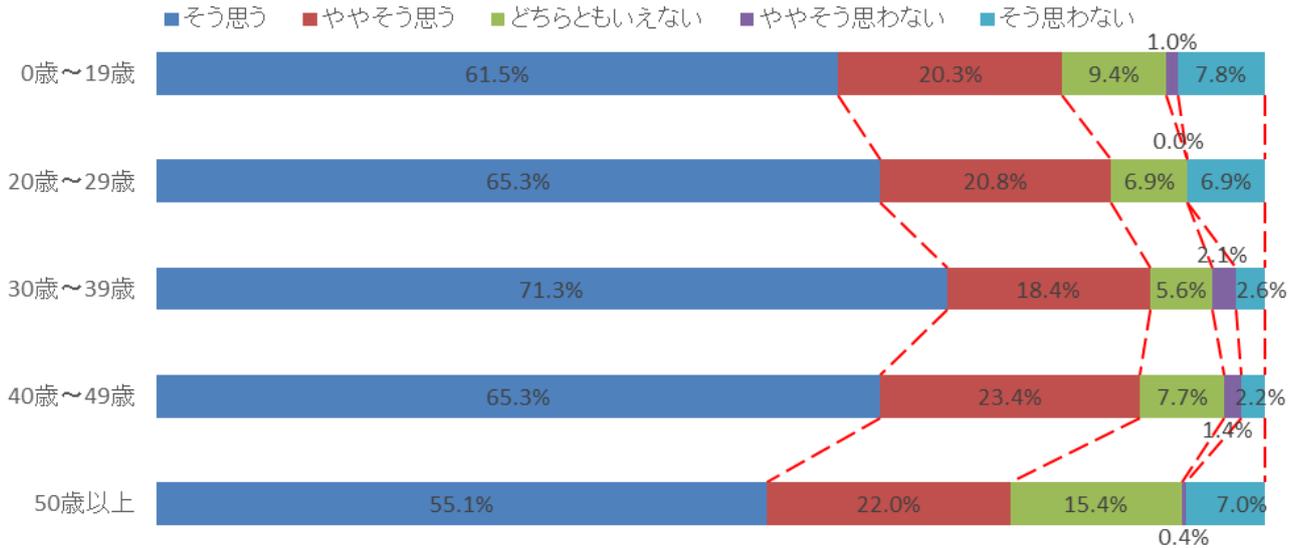
令和4年度と比較すると、令和5年度では「そう思う」の割合が1.9ポイント減少した。

グラフ13 性別と体罰以外のしつけの方法を学ぶ意欲との関連



「そう思う」の割合は、女性の方が11.9ポイント高い。

グラフ 14 年齢と体罰以外のしつけの方法を学ぶ意欲との関連



「そう思う」の割合は30代で最も高く、「そう思わない」の割合は10代で最も高い。

質問 5 (自由記載) 子どものために必要なしつけとは、どのような方法で行うことだと思いますか。

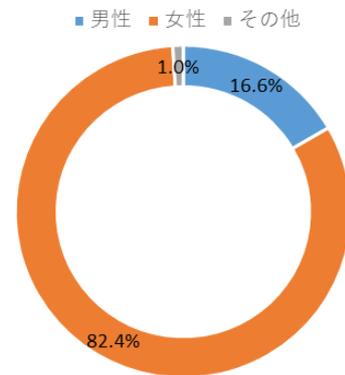
(1) 自由記載の回答数：695件

ア 上記回答者の内訳

■性別

男性	115人	16.6%
女性	571人	82.4%
その他	7人	1.0%
計	693人	

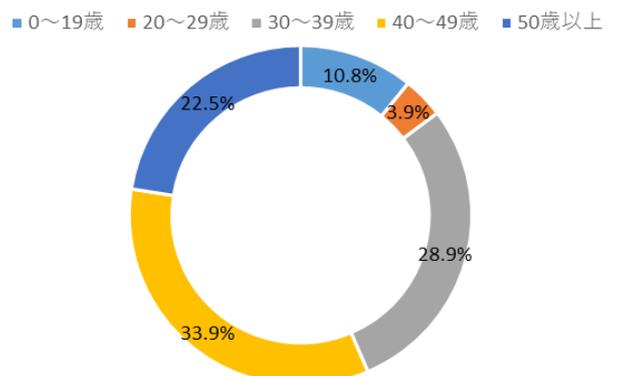
グラフ 15



■年齢

0歳～19歳	75人	10.8%
20歳～29歳	27人	3.9%
30歳～39歳	200人	28.9%
40歳～49歳	235人	33.9%
50歳～	156人	22.5%
計	693人	

グラフ 16

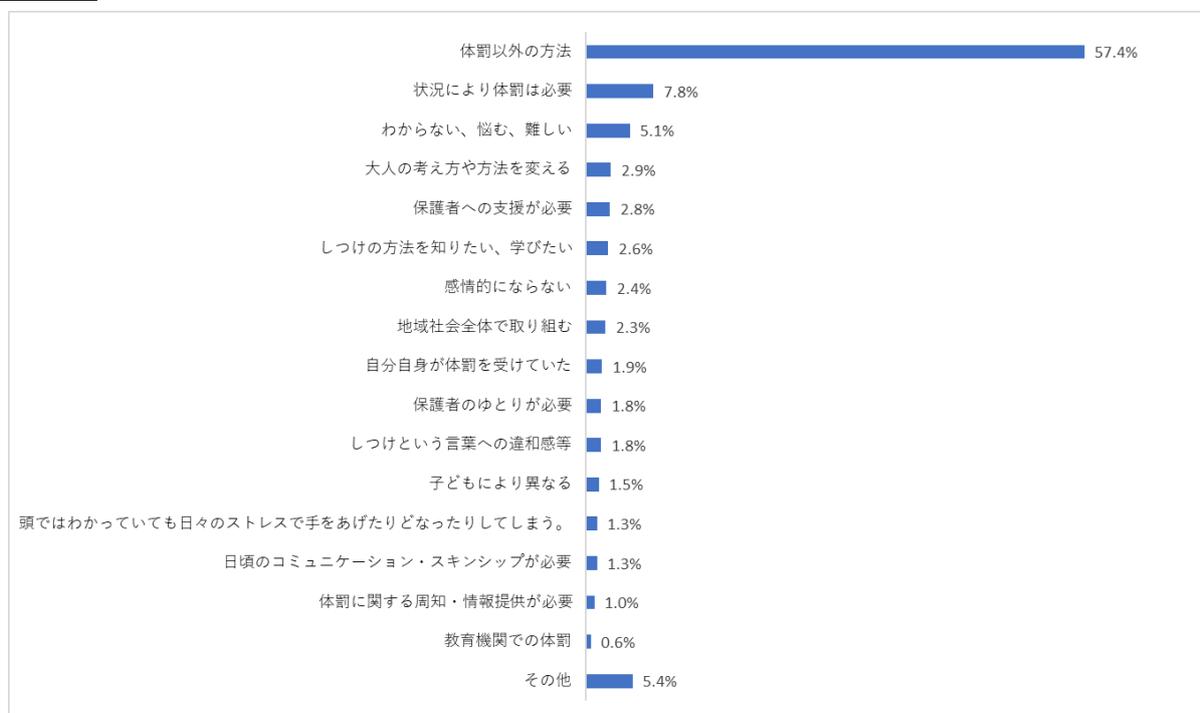


イ 上記回答の内容を以下 17 のカテゴリーに分類

- ①体罰以外の方法
- ②わからない、悩む、難しい
- ③状況により体罰は必要
- ④頭ではわかっているも日々のストレスで手をあげたりどなったりしてしまう。
- ⑤保護者への支援が必要
- ⑥日頃のコミュニケーション・スキンシップが必要
- ⑦体罰に関する周知・情報提供が必要
- ⑧感情的にならない
- ⑨大人の考え方や方法を変える
- ⑩しつけの方法を知りたい、学びたい
- ⑪地域社会全体で取り組む
- ⑫保護者のゆとりが必要
- ⑬しつけという言葉への違和感等
- ⑭子どもにより異なる
- ⑮自分自身が体罰を受けていた
- ⑯教育機関での体罰
- ⑰その他

ウ 上記イの内容をカテゴリー別に集計

グラフ 17



最も多い「体罰以外の方法」の具体的な内容は、以下のとおり。

- ・言い聞かせる。大人が見本を見せる。体罰は悪い見本を見せることになる。
- ・端的に話す。悪かった所だけでなく、よかった所も伝える。両手を握って、アイコンタクトをしながら話をする。

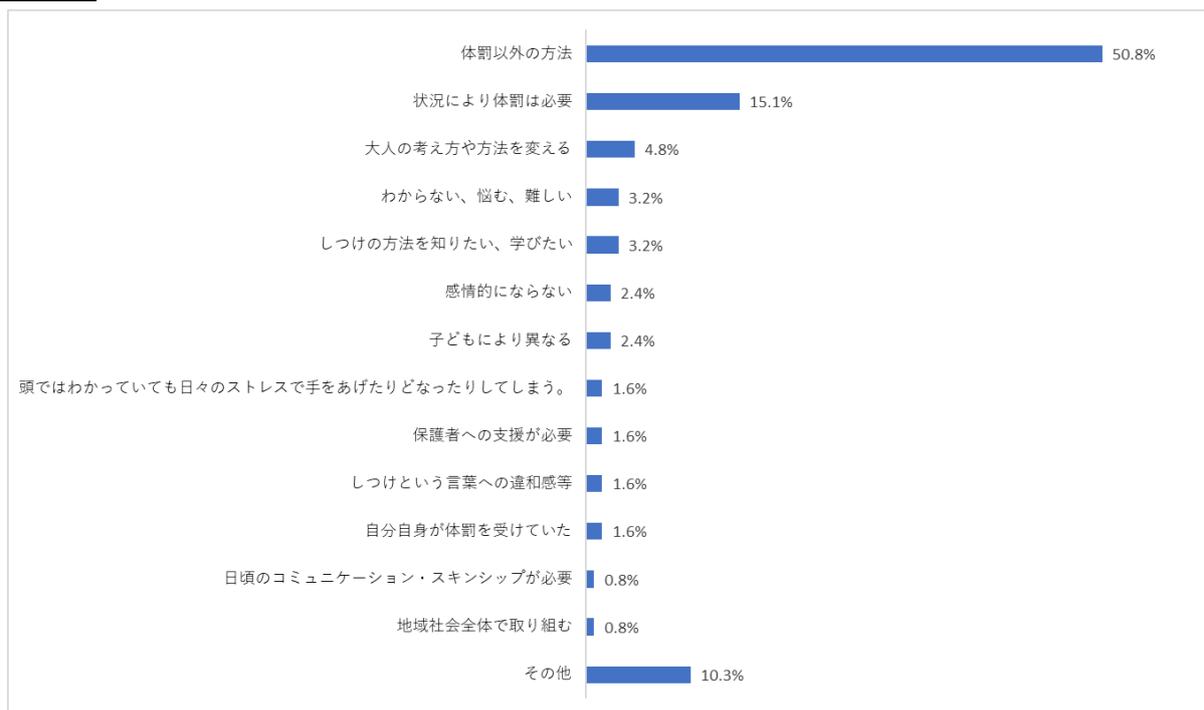
- ・きちんと向き合って話し合うこと。
- ・間違っただけの行動をしたときに怒る、手を出すのではなく一緒にこうすればよかったと考えてあげる。
- ・何故そうしないといけないのか理由を教える
- ・人間、社会人として間違っていることをしたらその場で間をおかず論ず。
- ・顔を見て何故ダメなのか、そこではどうしたらいいのかを一緒に考え、大人はヒントを与えるのが躰の一環だと思います
- ・ことの重要度によるが、やさしくすることで覚えやすいと思う
- ・どうすればいいのかをきちんと伝える
- ・子どもを一人の人間として扱い、話を真摯に聞く 等

「その他」の内容は、以下のとおり（質問の意図と異なる回答や、途中までしか記載がなく意味がくみ取れないものもここに含まれる。）

- ・自然体でいいと思う
- ・暴力や精神面やお金のことで無理やり押し付けなくて欲しいです。しかし、言うことをなかなか聞かない子や、接し方が難しい親や子がいるのでそういう方達への支援をもっと増やして欲しいです。
- ・今の子どもは、小さい頃からインスタに影響されているので、インスタを使って子どもの考えを引き出す事のできるゲームなどあれば良いと思う。大人がさせたい事と子どものやりたい事の矛盾が親、または、教育者をイライラさせて体罰が発生するように思うので、どちらにも有効なインスタゲームなど考えて欲しい。
- ・方法問わず子どもが将来必要な要素を身に付けさせること
- ・コロナでマスク生活をおくり、表情をみないでそだった子どもたち、特に2年生は、注意しても聞かない子が多いとPTA活動や子どもの話から感じています。文献をみると愛着障害といわれているみたいですが、コミュニケーションの難しさから体罰へ発展することが増えないのか心配です。
- ・話してわかれば最適だが今度は精神的DVとの境目がわからなくなる
- ・体罰よりも言葉の暴力、教育虐待が遥かに多いと言われていています。教育虐待の実態調査をお願いします。
- ・頭で理解してもらいたいが、かんしゃくや暴れたりするので(妻が暴れたりするので、子どもが、悪い事と認識していない)困っています。
- ・命に関わる出来事、行動を起こそうとした時にはかなり強い口調で叱ったことがあります。後で体罰したのと同じかもと考えるとそれから叱れなくなりました…
- ・失敗している事が多かったと思うため書けないです。 等

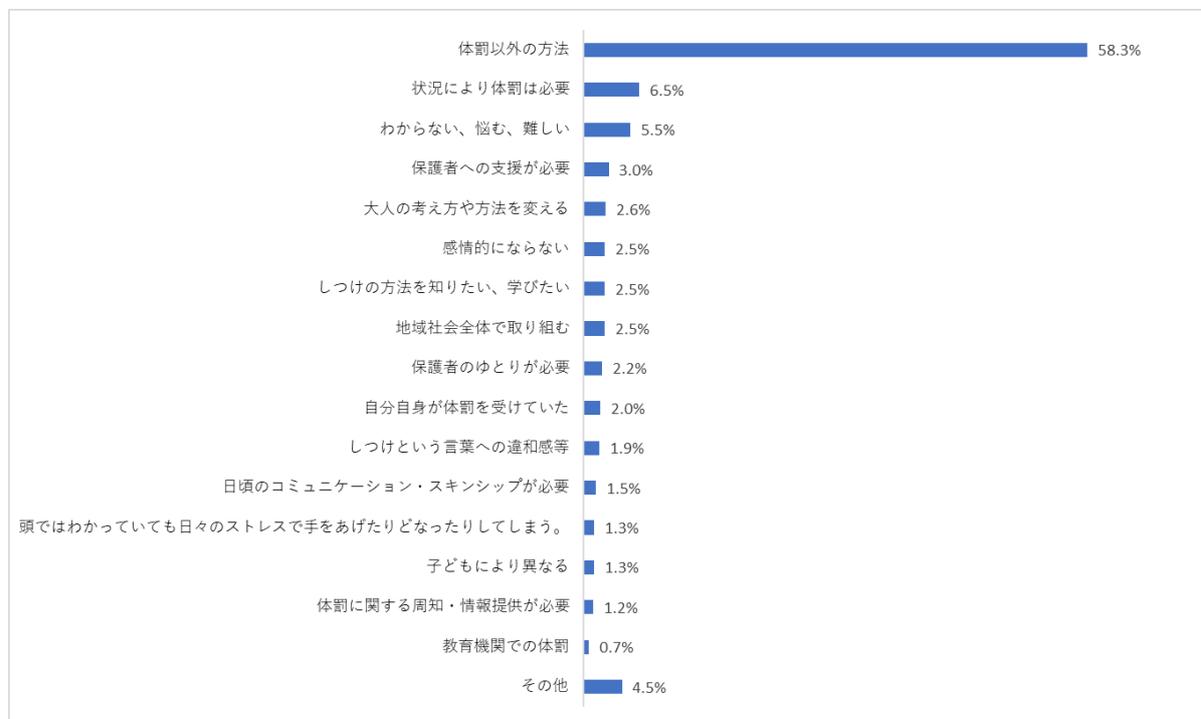
エ 上記イの内容について、性別や年齢別での回答傾向

グラフ18 男性の回答傾向



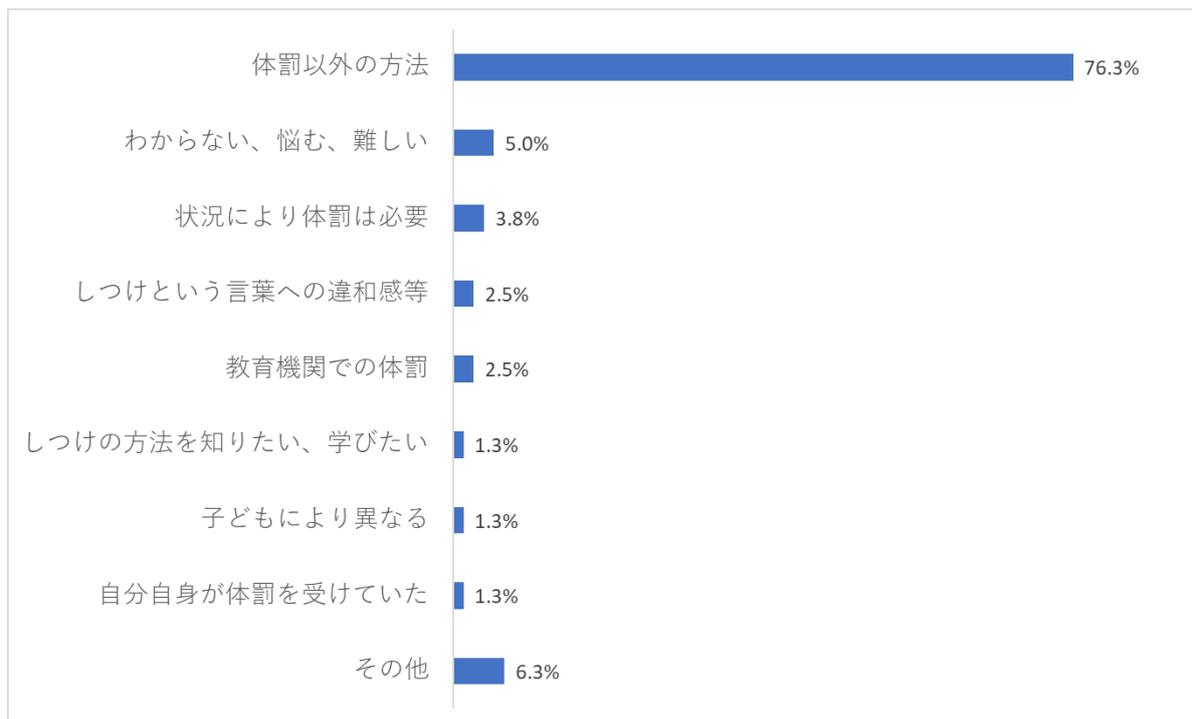
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次が「大人の考え方や方法を変える」であった。（「その他」を除く）

グラフ19 女性の回答傾向



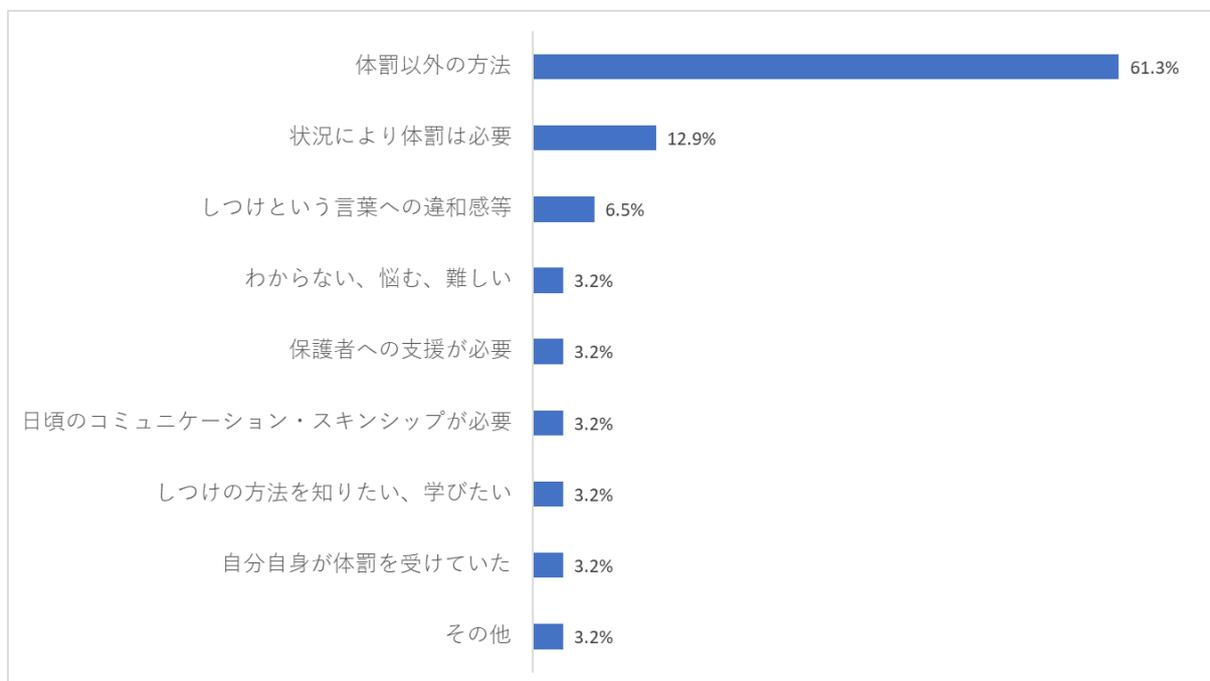
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次が「わからない、悩む、難しい」であった。（「その他」を除く）

グラフ 20 0歳～19歳の回答傾向



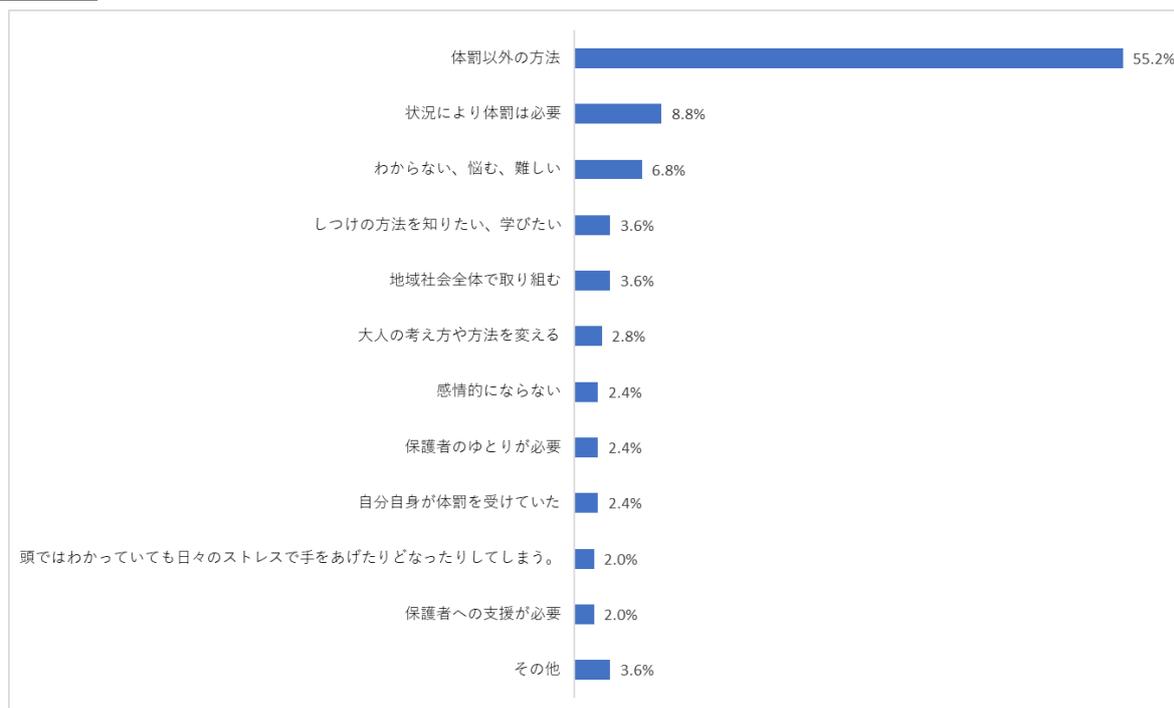
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「わからない、悩む、難しい」で、その次が「状況により体罰は必要」であった。（「その他」を除く）上記9項目以外の内容の回答はなかった。

グラフ 21 20歳～29歳の回答傾向



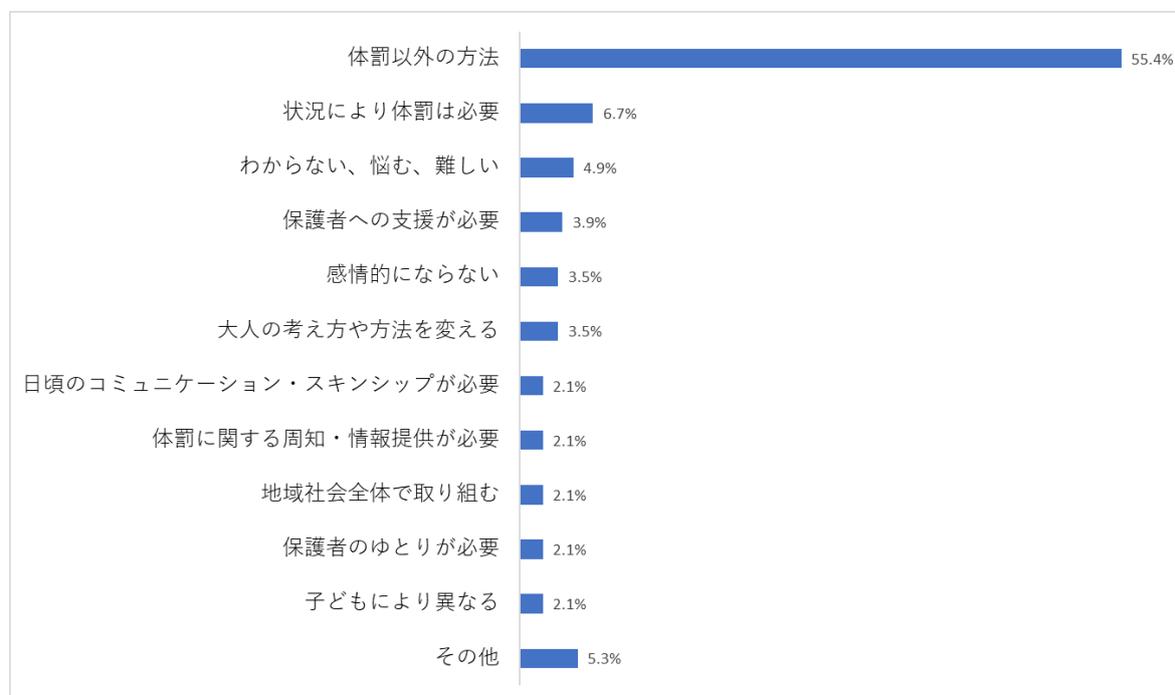
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次が「しつけという言葉への違和感等」であった。（「その他」を除く）上記9項目以外の内容の回答はなかった。

グラフ 22 30 歳～39 歳の回答傾向



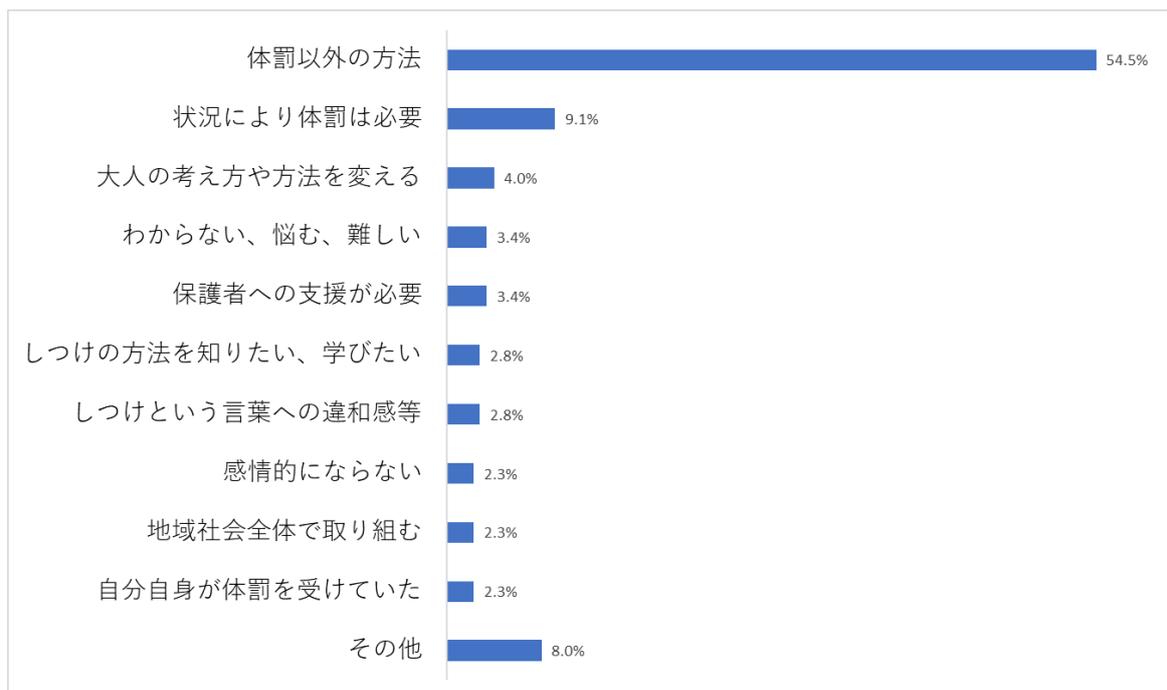
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次が「わからない、悩む、難しい」であった。（「その他」を除く）グラフの 12 項目以外にも、1%台のものが複数見られた。

グラフ 23 40 歳～49 歳の回答傾向



「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次が「わからない、悩む、難しい」であった。（「その他」を除く）グラフの 12 項目以外にも、1%台のものが複数見られた。

グラフ 24 50 歳～の回答傾向



「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次に「大人の考え方や方法を変える」であった。（「その他」を除く）グラフの 11 項目以外にも、1%台や1%未満のものが複数見られた。